

# 万葉集にみる松浦佐用姫（1/2）

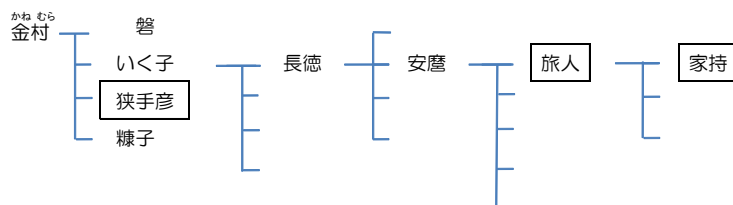
～キーマン 大伴狭手彦～

万葉人（万葉集に歌を載せている人々）が、なぜに松浦の地を憧れ、また、佐用姫を歌に詠んだのであろうか。

## ■キーマン、旅人

ここで、「松浦佐用姫と万葉集」を語る時、重要な人物が大伴旅人である。726年に山上憶良が筑前国守として、728年には大伴旅人が太宰帥（そち）として、筑紫の地に赴任する。今日、万葉集が大きく「筑紫歌壇」と「大和歌壇」に分類されているが、この二人は「筑紫歌壇」の立役者である。まして、松浦の万葉には、旅人の大きな想い入れが以下のことで推測される。

## 大伴氏の系図



となっている。大伴氏は、大和朝廷の重要な役職の家柄である。この系図で解るように、旅人は、大伴金村を祖とし、遠く狭手彦をも親類としている。加えて、憶良や旅人は、15年程前に出された、『風土記』や『日本書記』を恐らく読んでいる。そこで、この松浦の地に大変な憧れをもっていたであろう。今でいう、映画の有名なシーンのロケ地に行ってみたいと思う気持ちである。特に、旅人には、その祖先に狭手彦がいる。そこで、当時、大宰府より松浦の地玉島までは、馬をとばし七山越えをすれば、日帰りできたという。旅人が、馬をとばし、七山、玉島と来ると、そこには、以前より見聞きしていた、大和吉野川や中国の山水を思わせるような溪谷の景色があった。松浦川（現在の玉島川）の溪流。溪谷の白い岩と石と淀。そして、乙女が釣りをしている。全くもって、想像していた通りの景観と乙女であった。そのことが、万葉集の歌から読み取れるのである。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



古代松浦地方の交通路想定図  
（『松浦と万葉』より）



万葉水繪石公園にある万葉歌碑  
（『唐津探訪』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『松浦と万葉』清水静男著 P18
- ◆『松浦佐用姫と大伴狭手彦』荻野忠行著
- ◆『九州の萬葉』福田良輔編

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

# 万葉集にみる松浦佐用姫（2/2）

～キーマン 大伴狭手彦～

～1/2からつづく～

## ■万葉集、松浦および佐用姫に関する歌

唐津市・東松浦郡に関する万葉の歌は30首ある。これを大別すると①玉島川に関する歌15首、②鏡山（佐用姫伝説）に関する歌6首、③神集島（遣新羅使）に関する歌7首、その他、松浦船の歌2首となっている。それでは、紹介するとする。

- 松浦川七瀬の淀はよどむとも われはよどます君をし待たむ  
原文・巻五、860  
「麻都良我波 奈々勢能與騰波 与等武等毛 和礼波与騰麻受 吉美遠志麻多武」
- 遠つ人松浦佐用比比売夫恋に 領巾振りしより負える山の名  
原文・巻五、871  
「得保都必等 麻通良佐用比米 都麻胡非余 比例布利之用利 於返流夜麻能奈」
- 海原の沖行く船を帰れとか 領巾振らしけむ松浦佐用比売  
原文、巻五、874  
「宇奈波良能 意吉由久布祢遠 可弊礼等加 比礼布良斯家武 麻都良佐欲比売」
- 足姫御船泊てけむ松浦の海 妹が待つべき月は経につつ  
原文、巻十五、3685  
「多良思比売 御船波テ家牟 松浦乃宇美 伊母我麻都倍伎 月者倍余都々」

分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



神集島ある7基の歌碑る  
(唐津フォトライブラリーより)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『松浦と万葉』清水静男著 P2
- ◆『松浦佐用姫と大伴狭手彦』荻野忠行著
- ◆『九州の萬葉』福田良輔編

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)